

○前川 綺香 氏（平成7年（当時2歳）、父を交通事故で失う）

〔要旨〕

29歳で父は事故に遭い、命を落とした

私が生まれたのは兵庫県神戸市です。1995年当時、私は2歳、父と母、そして母のお腹には2月に生まれてくる予定の弟がいました。先日、23年目を迎えましたが、1995年1月17日、阪神・淡路大震災が神戸を襲いました。死者は6,400名を超える大規模な地震でした。私たち家族の住んでいた地域は比較的被害が少なかったのですが、ライフラインは途絶え、毎日生活するのもやっとでした。震災から3週間後の2月7日に、弟が無事生まれました。しかし、水の供給もままならなかったため、家族4人で飲料水からお風呂のお湯まで少しずつ分け合う生活をしていました。弟をまずお湯で洗い、その水で私、母、父の順に体を洗うような毎日でした。

そんな生活が続いていた年の8月9日、建設会社に勤めていた父は被災した神戸をいち早く復旧したいという一心で働いていました。阪神高速三号線と新幹線の復旧工事を請け負う現場の責任者となり、倒壊した現場に寝袋を持参し、仮眠をとり、昼夜問わず、工事の指揮をとっていました。その日も朝から現場での仕事があり、父は原付きバイクで出社しました。地震からまだ半年ほどしかたっておらず、舗装されていない道路を走るためにはバイクしか交通手段がなかったのです。父は現場から会社へ帰る際、右折してくるタンクローリーに巻き込まれ、頭を強く打ち、即死しました。私は当時2歳だったので、この出来事はよく覚えていません。今回、このような機会をいただき、母や祖父母に当時の様子を聞きました。思い出したくないことだったかもしれませんが、それでも、私のために、そして交通事故で悲しむ人がいなくなるようにと当時の様子を教えてくださいました。

気づけば、物心がついたときから父は家庭にいませんでした。私たち家族は神戸での生活を引払い、母の故郷である北海道札幌市に引っ越しました。母は2歳と0歳の子供二人を抱え、相当、苦勞したと思いますが、女手一つで私たちきょうだいを大学まで卒業させてくれました。それに、神戸に住む父方の祖父母がいろいろ手助けをしてくれましたし、祖父が父代わりにたくさんのことを教えてくださいました。

思春期になり、父がいないことで悩んだり、家族の中でぶつかり合ったこともありました。しかし、家族がお互いを支えなくてはいけないとわかっていたので、毎日を必死に生きてきました。いつの間にか、父と過ごしたたった2年の月日の何倍もの時間が過ぎてしまいました。弟はたった半年しか父のぬくもりを知りません。そして、私はあと4年で父の年齢を超えてしまいます。父は当時29歳でした。私が社会人になって思うことは、29歳は人生のこれからという時期だということです。結婚し、子供が生まれ、働き盛りの父は悔しかったのではないかと思います。もっと生きたいと思ったはずです。私も父と一緒に生きたかった。家族4人で震災を乗り越えたかった。そう思うと、私は交通事故を許すことができないのです。

人の命の大切さと家族の大切さ

高校卒業後、私は北海道を離れ、関西の大学に進学し、今は宮城県仙台市で一人暮らしをしながら仕事をしています。仙台も6年前に東日本大震災を受け、今でも舗装されていない道路がたくさんあ

ります。私は今、医療機器の営業の仕事をしているので、一日の大半を車に乗っています。スピードは出さない、目視はしっかりする、交通ルールを守るということを胸に刻んで、日々運転しています。ちょっとした不注意や気の緩みで事故は起きてしまいます。

なぜ、父は死ななくてはならなかったのか、なぜ事故が起きてしまったのか、考えてもわかりません。しかし、毎日、どこかで交通事故が起きていて、痛ましいニュースが飛び込んできます。被害者になってしまう可能性と同時に、加害者になってしまうことだってあるかもしれないのです。

父が亡くなったことでわかったのは、「人の命の重さ」と「家族の大切さ」です。私が関西の大学に進学したのも4年間という期限を決め、かつて父と住んでいたところをこの目で見なかったという気持ちが根底にあったからでした。医療機器のメーカーに就職したのも、医療に何らかの形で携わりたかったからです。私の弟は去年の春から災害復興に関係する仕事につきました。私は震災を経験し、今、別の被災地で暮らし、仕事をしています。家族とは離れて暮らしていますが、家族がいたから私はここまで強く生きてこられたと思います。また、家族だけではなく、周りの人たちの熱心なサポートもあったから生活できました。皆さんにも大切なご家族がいると思います。皆さん自身や皆さんの大切な人たちの命を一瞬にして奪う交通事故で、その未来をつぶしてはなりません。被害者になるのも加害者になるのもほんの一瞬です。当たり前のようにいる周りの人々の存在を、当たり前と思わずに感謝してください。ご自身のために、そしてみんなのために、自分をもっと大切にしてください。心がけ一つで悲しい出来事は減ります。今日の話をつきかきに交通事故や、皆さんの大切な人への考えが少しでも深まれば幸いです。